

たぐろ

JFグループ兵庫



福良漁業協同組合 亀山尚汰さん

令和6年 年始のご挨拶

CONTENTS

- 2 新年のご挨拶
- 6 輝く若手漁業者インタビュー 亀山尚汰さん
- 8 次世代につなぐ、豊かで美しい海づくり活動報告
- 10 兵庫県水産賞 受賞者決定
JF兵庫漁連 第48回通常総会 開催
- 11 虹の仲間で海づくり
虹の仲間で森づくり
- 12 ようそろ
漁師の挑戦
- 13 兵庫JCC通信
- 14 令和5年度「ひょうご海の子作品展」絵画部門

新年のご挨拶



兵庫の新たな

ステージへ

兵庫県知事 齋藤元彦

新年あけましておめでとうございます。昨年、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、社会経済活動が正常化しました。その一方で、物価高騰や円安は依然として私たちの暮らしに影響を及ぼしています。こうしたなかでも、阪神タイガース、オリックス・バファローズ、ヴィッセル神戸の活躍は、私達に感動を与え、地域に元気をもたらしてくれました。

選手達のはつらつとしたプレーのように、令和6年の県政も、だれもが夢や希望を持って挑戦できる社会をめざし、「攻めの県政」を展開する一年にしたいと思えます。

まずは、若者・Z世代への支援です。兵庫県立大学・大学院の無償化や奨学金返済支援の拡充など、結婚・出産のハードルにもなっている教育費の負担を軽減します。また、海外への留学等を支援し、国際視野を得る機会を広げます。不妊治療支援や若い世代に向けた住宅支援の充実など、兵庫で子どもを生み、育てたいという希望を叶える環境づくりも進めます。

高齢者の安全安心な暮らしを守ります。特殊詐欺被害が過去最悪のペースで増加するなか、被害者の8割を占める高齢者を被害から守るため、全

国一の規模で集中的に対策を強化します。自転車ヘルメットの購入支援を行い、高齢者に多い自転車死亡事故の減少につなげます。また、ソフット・ハード両面からユニバーサルツーリズムを進め、年齢や障害の有無に関わらず安心して旅行ができる社会を実現します。

地域のポテンシャルを活かし、兵庫の持続的発展につなげます。人と環境にやさしい農業、革新に挑む地場産業、地域に根付く芸術文化など、兵庫各地の人々の営みには、世界が持続可能な発展を遂げるための多くのヒントが、あります。大阪・関西万博を機に、こうした現場に国内外の人々を誘う「ひょうごフイールドパビリオン」の取組を加速します。また、脱炭素社会実現の鍵となる水素エネルギーの活用や、有機農業の拡大に向けた担い手育成など、持続的な成長を支える取組を先導します。

県政推進にあたり、現場主義の徹底と対話重視の姿勢に変わりはありません。これまで以上に、現場に足を運び、地域の皆様との対話から出てくる課題やニーズを積極的に施策に反映していきます。

兵庫の新たなステージに向け、果敢に取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いたします。



年頭のご挨拶

なぎさ信用漁業協同組合連合会 経営管理委員会 会長 中川 弘

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様

に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年を顧みますと、漁業界にあって最も大きな出来事は、漁業者・国民の理解を得られないまま行われたALPS処理水の海洋放出であり、政府は廃炉完遂まで漁業者のなりわい継続に取り組むこと、国が全責任をもって必要な対策を講じ続けること、フォロアアップ体制構築と水産予算とは別に必要な予算措置に政府全体として責任をもつて対応することについて、改めて国としての約束が示されましたが、この問題については、今後数十年単位で国と向かい合いながら最善の努力を尽くしていくことが必要となります。

さて足元の国内経済動向を見渡しますと、長引くロシアの軍事進攻による世界的な高インフレ持続や政情不安につられて、景気の回復力の弱さが見られることから、日本銀行は、長引く低金利政策が日米金利差による過度な円安を招き物価上昇圧力になることを避けるために、徐々に金利上昇を容認する政策変更が窺える状況となってきました。

本会としては、この金融政策の節目となりうる局面を乗り越えるため、令和5年度の通常総会において承認された「中期経営計画(第3次)」で掲げた基本目標「浜の未来を豊かに変えるマリンバンク」を目

指し、発足後6年間で作り上げてきた組織・機構・運営体制・収支構造のさらなるステージアップに向け、会員・系統団体並びに利用者のご理解とご協力のもと、優先的取組事項として昨年度から一貫して収益向上と経費削減の両面から即効性の高い各種施策の実践に取り組んでまいりました。

結果として、当年度の本会収支は経営環境が変化する中にも順調に推移する状況にあります。

また、令和5年度からの会計監査対応につきましましては、8月以降、厳格な内部統制と統一した事務手続きをもとに本年度中全11工事中3工程の会計監査を受検しました。

一方、漁村地域への貢献を目的として設置した「融資部兼漁家経営相談室」においては、漁業者が参加する「かいほり」などの漁場環境保全・地域貢献活動における伴走支援者としての取組支援を行いました。

本年におきましては、現在までに積み上げた漁家支援の経験を生かしながら、他の地域への拡大を目指し、取り組みを継続・拡充してまいります。

最後になりましたが、「愛される浜の金融機関」としてあり続けるために、本年も役員員一丸となって事業運営に取り組みんでまいり所存ですので、倍旧のご指導とご鞭撻をお願いするとともに、皆様方のますますのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

兵庫県漁業共済組合 組合長理事 川越 一男

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。新春にあたり、皆様のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。

2023年振り返ってみますと我が関西を代表とする阪神タイガースやオリックス・バファローズ、ヴィッセル神戸が飛躍し又、WBC侍ジャパン優勝など含めスポーツ界の活躍が大きく目立ち、政治においてはG7広島サミット開催や経済においては物価高、電気高騰、増税と言ったキーワードが目立った年となり、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、コロナ禍で低迷していた国内の水産物需要や魚価が回復基調となるなど明るい兆しが見られるようになり、浜回りの再開・強化、対面方式による普及推進等の再開など、コロナ禍前の本来の業務体系に戻りつつあります。しかし、一方では国際情勢の悪化による原油・飼料価格及び漁具や資材関係等の価格高騰が益々続き、更には東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水海洋放出に伴う風評被害など、漁業経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況であることを改めて思い知らされた年でした。

このように、漁業を取り巻く環境が依然として厳しいなか、漁業経営の安定を図るための国の重要な水産施策と



年頭のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事 会長 田沼 政男

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様にご挨拶と新年のご挨拶を申し上げます。

世界情勢はロシアのウクライナ侵攻につき、中東における紛争など不安定にあり、日本の漁業・漁村においても原油、資材価格の高騰により厳しい状況が続いております。そのような中、国の水産予算は6年連続で3000億円を越える予算化が実現しました。

また、昨年は東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水について、我が国が今まで求めてきた「海洋放出反対」の声は聞き入れられず、8月24日から政府主導で海洋放出が開始されました。さらに海洋放出に端を発した中国等の輸入禁止などもあり、全国の漁業関係者は日々、不安を抱えています。本県においても、カキ・ナマコ・甘エビ等の輸出货量が大幅に減少するなどの影響がありました。本会といたしましても、確保された基金を皆様円滑に活用できるようにサポートしてまいります。

さて、瀬戸内海における豊かな海の現実への取り組みについては、沿海地区に立地する工場や下水処理場などからの栄養塩類の供給量増加を目的とした兵庫県栄養塩類管理計画が策定されました。他県でも同様の計画策定を目指した動きが拡がり、取り組みが大きく加速しております。豊かな海づくりの実践に向けて栄養塩類の供給等に取り組んで参

ります。

日本海においても、漁業者が安全に自主的な資源管理の取組を行い、漁獲量の増加につなげるために、外国船の違法操業対策や北朝鮮のミサイル発射に対してしっかりと国・県へ要望して参ります。

さらに、本会の取り組みとしては、漁業法等の改正に伴い、JFグループの運動方針にも「水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化を両立させた活力ある漁業の構築」が掲げられ、JF自らの改革の実践が求められています。このような中、豊かな海を取り戻し、漁業とJF組織を守りながら、兵庫の魚の販売強化のための基盤整備を行い、本県漁業を継続していくために第49期から3年間の第6次中期経営計画を策定しました。計画では「豊かな海の実現」、「兵庫の魚の販売強化のための流通加工事業の拡大」など、7つの重点取組事項を掲げ、役員が一丸となり力強く実践して参りますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、2024年は「甲(きの)え」辰(たつ)年です。物事のはじまりを意味する「甲」と、成長し動きが盛んになる意を持つ「辰」の二つの文字が組み合わさると、「いままで準備してきたことが形になる」ということを表わすと言われています。本県漁業が活気に溢れ、躍動する一年となりますよう、皆さまのご繁栄とご健勝を祈念いたします。年頭のご挨拶とさせていただきます。

して位置付けられている「ぎよさい」と「積立ぶらす」への加入は漁業経営を継続する上で欠かすことのできないものとなっておりますが、これからも漁業者からの制度への期待に応えていけるよう、事業の円滑な実施に努めて参ります。

令和5年度において当組合の加入推進目標は漁業共済事業の共済金額を約330億円、漁業者の「積立ぶらす」の積立額を9億3千万円と目標設定しておりますが、今年度残り3ヶ月もその達成に向けて役員員一丸となって加入推進して参ります。

現在、国は「ぎよさい」と「積立ぶらす」について、水産基本計画等に基づいた制度見直しの検討を進めております。その検討にあたっては、漁協系統・漁業者団体と緊密に連携し、漁業実態の変化や、漁業者の意見が十分反映されるよう努力を傾注して参ります。

今年度は漁業災害補償制度創設60周年という節目の年となりますが、これからも漁業経営の安定と我が国水産業の発展に寄与できるよう、引き続き取り組んで参りますので、皆様の変わりぬご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。災害のない豊漁・豊作となることをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ

兵庫県農林水産部 水産漁港課 課長



山下 正晶

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新年を清々しい気持ちでお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことにより、国内外とも人の移動がコロナ前の水準にほぼ回復し、県内でも外国人観光客が町を行き交うなど賑わいが戻ってきています。また阪神タイガースの日本一、オリックス・バファローズのリーグ3連覇、ヴィッセル神戸のJリーグ初優勝など、ひょうこの秋はスポーツ一色に染まりました。

一方、世界に目を向けますと、イスラエルの軍事行動、長引くロシアのウクライナ侵攻など社会情勢の不安は深刻度を増し、北朝鮮による度重なるミサイル発射や、福島原発の処理水放出をきっかけとした中国の水産物の輸入停止、エネルギーを始めとした物価高騰など、本県水産業にも大きな影響を及ぼしています。

県では、何よりも豊かな海の再生に向けて、全国豊かな海づくり大会の理念を継承する「ひょうご豊かな海づくり県民会議」を7月に設立し、



11月には神戸市内で推進大会を開催しました。また翌日の瀬戸内海環境保全特別措置法制定50周年の記念式典では、豊かで美しい里海としての瀬戸内海の重要性を認識し「未来へのパトパス」をテーマに次世代を担う若者たちが意見を交わしました。漁業者の皆様と力を合わせ、県民総参加での豊かな海の早期の再生に全力で頑張らせて参ります。

来年には大阪・関西万博の開催が迫り、社会全般にSDGsの考え方が広まってきています。県でも、豊かな海の実現に加えて、担い手の確保と経営力の強化、漁港・漁場の整備や漁村の活性化など、持続的な水産業の実現を目指して各種対策を進め、さらに2050年のカーボンニュートラルに向けた検討など、様々な課題に職員一同力を合わせて取り組んで参りますので、引き続きのご理解ご協力をお願い申し上げます。

令和6年が実り多い年となりますよう、操業安全と大漁満足を心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター所長



長島 浩

新年明けましておめでとうございます。皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

瀬戸内海のノリ養殖やカキ養殖、日本海の沖合底びき網漁やべにずわいかにかご漁をはじめ、漁業関係者の皆様には、お正月休みも束の間を生産に励んでいただいていることに敬意を表しますとともに、順調な水揚げと操業安全を願っております。

日本のお正月には、鯛、鰯、海老、蛸、鮑、数の子、昆布、蒲鉾などたくさんのお水産物が食卓を彩ります。また、松葉ガニや3年トラフグ、カキなどのお鍋を召し上げることが多いと思います。新型コロナウイルスによる規制も緩和され、県内はもとより、全国各地で水産物の消費を増やすためのイベントなどが実施されるようになり、消費者の皆様にはとても喜ばれているところですが、魚介類の安定供給があつてこそその賜物です。

水産政策の改革に伴い、イカナゴやベニズワイガニなど本県にも関わりが深い魚種でも新たにTAC管理の検討が進められておりますが、正確な資源評価により、安定した漁獲を持続していくためには、研究機関による資源調査はもちろんです。漁業者や漁協の皆様からの漁獲情報の提供が大変重要となります。報告のデジタル化

も進められておりますので、今後とも、正確かつタイムリーな情報提供についてご協力をお願いいたします。

水産技術センターにおきましては、瀬戸内海では、マダコを増殖を目指した研究や高水温耐性のあるニジマス作出、貧栄養化が生物の生産に及ぼす影響の調査に取り組むとともに、藻類養殖における高水温化への対応、クロダイ等による食害対策について、引き続き課題解決に取り組んでおります。また、日本海では、近年漁獲量が増えているホッケアカアエビの資源に関する生物学的調査や水産加工品の品質管理技術の開発に取り組みとともに、底びき漁期前調査結果や沿岸いか釣り漁場探索結果等の情報発信に努めております。

これからも、安全・安心で美味しい兵庫県産水産物を安定的に供給できるように調査・研究に取り組んで参りますので、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、兵庫の海がより豊かで美しくなり、生産者から消費者まで全ての人が海の恵みを楽しめる一年でありますよう、また、新しい年が皆さまにとって実り多い年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

全国漁業協同組合連合会 代表理事会長



坂本 雅信

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

近年、社会・経済情勢の世界的な不安定化が続き、我が国の漁業・漁村を取り巻く環境においても、燃油・資材価格の高騰や海洋環境の変化等に伴う不漁・頻発する自然災害など、大変厳しい状況が続いております。

本会は昨年、これらの諸課題に対応するため、JFグループの先頭に立って、対策の確立などを関係要路に強く要請し、最終的には要望事項を網羅するあたりで、6年連続で3,000億円を超える予算を確保することができました。ここに、改めてご協力いただきました会員および関係者の皆さまに御礼申し上げます。

また、昨年は東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水について、我々が今まで求めてきた「海洋放出反対」の声は聞き入れられず、8月24日から政府主導で海洋放出が開始されました。さらに、海洋放出に端を発した中国等の過剰な輸入規制などもあり、全国の漁業関係者は日々、不安を抱えています。

漁業者が強く望んでいるのは、安心して漁業を継続することです。そのためには、国には「漁業者に寄り添い、必要な対策を取り続けることを今後数十年にわたる」とも、全責任を持つて対応する」という岸田文雄内閣総理大臣の約束を確実に履行し、漁業者をしっかり支えていただきたい。一方、我々も引き続き状況を注視していくと



ともに、「水産業を守る」政策パッケージを活用しながら、漁業者が安心して操業できるような環境づくりに努めて参ります。

また、中国などの輸入規制に対しては早期撤廃の実現が極めて重要な課題と認識しており、JFグループとして、漁業の成長、発展、食料自給率の向上のために国民を巻き込んだ国を挙げての魚食拡大を進めていきたいと考えております。

私は常々、「日本の漁業にはポテンシャルがあり、成長産業である」と申し上げてきました。日本の漁業は、もともと豊かな海に囲まれた環境で生まれた産業であり、魚を中心とした「魚食」「和食」という文化を発展させてきました。我々は、こうした海や漁村の地域資源の価値や魅力をさらに活用・発信して、地域の賑わいや所得と雇用を生み出すことが期待される「海業（みぎょう）」の振興などとともに、「浜の活力再生プラン」を推進して参ります。併せて、10周年を迎えたプライドフィッシュプロジェクトなどを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担っていく所存です。

今年には現行のJFグループ運動方針の取り組みの最終年です。引き続き、担い手育成、合併等組織再編、産地市場統合、販売事業改革などに取り組み、浜の構造改革を実現し、新たな運動方針の策定に繋げていくこととします。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

浜の笑顔と共に

全国共済水産業協同組合連合会 代表理事会長



楠田 勇二

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、浜の皆様は謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素よりJF共済に格別のご高配を賜わり、心から厚く御礼申し上げます。はじめに、これまでに新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様、そして、台風や地震等の自然災害により被害に遭われた全国各地のJF組合員・漁家世帯員および地域住民の皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げますとともに、未だ不自由な暮らしをされている方々へ、一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症については、感染防止対策の緩和により日常生活、社会活動がコロナ禍前の状態へと徐々に回復しています。一方、高齢化や漁業従事者の減少、海洋環境の変化に伴う主要魚種の不漁が続き、さらに、円安の進行、不安定な国際情勢等の影響による資源価格、物価の高騰、ALPS処理水問題など、漁業者やJFを取り巻く事業環境は行き先が見通せず、依然として厳しい状況が続いています。

こうした中、JFグループでは、水産業の成長産業化に向けた改革の実践として、①漁業者自らが進める浜の構造改革、②浜の改革を支えるJFグループの改革、③新たな制度等への的確な対応（水産政策改革等）、④地域社会・地域漁業への貢献の4つを取組みの柱と

して、グループ一体となって浜の構造改革に取り組んでいます。

JF共済は、共済事業が1983（昭和58）年にJFの元受事業となり2023年に40年を迎えました。2024年度は「浜の笑顔と共に」JF共済3か年計画」の中間年度として、重点取組施策である浜のあんしんサポート運動をJF共済の活動としてさらなる定着化をはかり、JF組合員・漁家世帯員および地域住民の皆様に対して、JF共済を広く浸透させ、一人ひとりに寄り添った保障の提供を行ってまいります。

また、JFが安定した事業運営をはかられるよう、共済事業収入の確保・伸長に向けた提案活動の実施、JF・JF共済連が一体となった共済推進体制の整備、JF共済事業をささえるJF役員・JF共済連職員の育成などの重点取組施策を引続き展開し、共済事業目標の達成に邁進してまいります。また、JFの共済事務負担の軽減を図るため、業務の効率化に務め、共済事業に取り組みやすい環境作りを行ってまいります。

JF共済は、引き続きJF組合員・漁家世帯員および地域住民の皆様は安心と安全をお届けできるよう役員一同取り組んでまいります。関係者の皆様のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



若手漁業者インタビュー

福良漁業協同組合 亀山尚汰さん
かめやましようた



今回は福良漁業協同組合の亀山尚汰さんにお話を伺いました。親方の前田若男さんにも同席いただきました。

●自己紹介をお願いします。

(亀山さん) 亀山尚汰です。26歳です。南あわじ市福良出身です。

●漁業種類について教えてください。

(亀山さん) 魚類養殖業です。

●どんな魚を養殖しているのですか？

(亀山さん) トラフグとサクラマスです。

●漁師になろうと思ったきっかけは？

(亀山さん) きっかけは、小学校4年生から高校まで陸上をしていて、その陸上で香川県の高校に行きました。年に3回ぐらい帰省することがあり、ちょうど冬の年末に帰省した時、親方が経営する若男水産でアルバイトの募集があり、働きたかったのできっかけです。

就職が希望で地元に戻ってきましたが、自分が一番したい仕事は何かと考えた時に、魚が一番好きで、海も好きなので、魚に携わる仕事がいいと思い、アルバイトをしていた若男水産にお願いをしました。漁師の仕事には魅力を感じていました。

感じていました。

●漁師になることについて家族の反応はどうでしたか？

(亀山さん) 自分が本当にしたい仕事だったので、特に反対はありませんでした。

●研修を受けられていましたが、どうでしたか？

(亀山さん) 研修では、1日の仕事はどうだったのかという感じで日誌を書いています。書くことにより、例えば1ヶ月分の日誌を見た時に、仕事がいかに流れていくことが分かりましたので、良かったです。

(前田さん) 日誌を書くことによって、自分で何をしたらかを考えることになりました。

研修生を初めて受け入れましたが、この研修制度があつて良かったと思います。人を雇い入れる面で助かりました。

●1日をどの様に過ごされていますか？

(亀山さん) 朝の5時前に起きて、6時には沖にある生簀へ行き、網替えやエサやりなどの作業をします。昼頃に沖から帰ってきて、昼からは15時ごろまで加工場で作業します。

あればすごく嬉しいので、こんな仕事いいと思います。

●亀山さんにメッセージをお願いします。

(前田さん) 色々新しいことをしていくけども、付き合ってもらわないといけない。仕事だけが増えていくが、その都度、仕事を覚えてもらいたいです。

(亀山さん) この不景気の中で、仕事をさせてもらうことは、すごくいいことです。仕事が増えるのは嬉しいです。

●本日はありがとうございました。



前田若男さん(親方)



亀山尚汰さん

●実際に着業してみているか？

(亀山さん) やりはじめはしんどかったです。本当に何をしてもしんどかったです。体力には自信がありました。仕事と比べると違っていましたが、生簀の網を引くことが一番しんどかったです。

●そんな亀山さんのことを前田さんはどう思っていますか？

(前田さん) 続けていけると思いました。アルバイトの時は加工場だけでしたので、沖に行き始めた頃は、

仕事の段取りを覚えることが、大変だろーと思っていました。

●今も仕事は大変ですか？

(亀山さん) あまり、大変と考えたことはありません。

●海で環境で何か不安に思うことがありますか？

(亀山さん) あります。トラフグも全部生きるわけではなく、死んだりもします。水温が高いのかどうか、何でだろうとは考えます。

●水温が高くなると影響はありますか？

(前田さん) 今の水温なら大丈夫です。福井県では、今年30度を越す日があつて、海面でトラフグが弱つており、養殖する人も死ぬと思つたそう。夏場に3分の2ぐらい死んでしまったようです。

水温が高くなりすぎるとは具合が悪い。海がきれいすぎても。栄養塩がある方が成長もいと思います。

●今後の抱負をお願いします。

(亀山さん) 抱負ではありませんが、いつも考えているのは、若男水産に務めることになった時に、一番初めに思ったことは、足だけは引つ張らないようにしよう。これだけは忘れないように心掛けています。

こうしたい、こうなりたいというのはありませんが、足を引つ張つたら、従業員や親方に迷惑を掛けてしまうので、これだけは忘れないようにしています。

●漁師をしていてよかったと思う瞬間は何ですか？

(亀山さん) 知り合いから3年とらふぐを買いたいと言われ、このふぐを注文するのですが、『美味かった』と言われます。魚を養殖し、加工して、お客さんの手元に届ける。この仕事いいなと思います。

●これから漁師を目指す方へのメッセージをお願いします。

(亀山さん) 漁師の仕事はしんどいですが、仕事に楽しさはないです。海に魚がいたらいいけど、いい時もあります。嬉しいことも、泣かないといけないこともあります。一攫千金みたいなことが



3年とらふぐに給餌する亀山さん

次世代につなぐ、豊かで美しい

● 第1回 ひょうご豊かな海づくり推進大会 ●



ひょうご豊かな海づくり県民会議設立後、初となる「第1回ひょうご豊かな海づくり推進大会」を神戸市のポートアイランド市民広場に於て令和5年11月11日に開催しました。当日は天候に恵まれ、子ども連れのご家族など約500人の参加がありました。

本大会では、県民会議会員の取組事例の発表や豊かな海づくりに関する展示、海を感じるワークショップなどを通じて、会員間の連携促進や県民総参加に向けた情報発信を行いました。



県民会議は作成したロゴマークを初披露したほか、養殖ノリのブルーカーボンに関する検討状況をパネルで中間報告しました。

ステージイベントでは一宮町漁業協同組合の大塚将太氏が種苗放流や海底耕うん、ため池のかいぼりなど漁業者の豊かな海づくりの取組を説明したほか、全国豊かな海づくり大会兵庫大会キャラクターはばタンも登場し、じゃんけん大会など参加者みんなで推進大会を盛り上げました。

さらに、吉備国際大学農学部海洋水産生物学科の学生も参加し、ステージやワークショップの盛り上げに一役買っていました。

ひょうご豊かな海づくり県民会議では、豊かな海づくりを県民総参加の運動へと発展させるため、多様な主体が取り組む豊かな海づくり活動のネットワーク化を推進し、団体相互の情報共有や活動の連携と普及啓発活動を積極的に展開していきます。



ブースNo.	出展者	テーマ・内容	ブースNo.	出展者	テーマ・内容
1	〈イベント実施本部・救護〉 ひょうご豊かな海づくり県民会議	活動紹介、スタンプラリーゴール	12	株式会社 淡路屋	特製お弁当販売
2	株式会社 カネカ Green Planet	海をまもる素材「Green Planet®」でよく飛ぶ羽矢をつくろう！ 特性紹介、数量限定プレゼント	13	兵庫県土木部下水道課	栄養塩管理運転（下水処理場の取組紹介）
3	一般社団法人 neo-wave	豊かな海の思いを届けるグッズたち 漁網バッグのワークショップ、バスネット販売	14	(公財) ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター	豊かで美しい瀬戸内海の再生を目指した研究紹介
4	合同会社 パールコネクション	国産と海とSDGsー興味で人と地域をつなぐー 展示、興味探しゲーム、クイズ、アザリ販売、ガチャ	15	(公財) ひょうご環境創造協会	海ごみのこと知りたくな〜豊かな海ってなんだろう〜 海ごみ、ジオラマ展示
5	あいおいニカニプラザーズ	相生湾のカニたち 分布図、標本展示	16	日本リーフ株式会社	兵庫の豊かな海で旨く美味しいタコを増やそう！ 産卵用タコが投入の取組、製品紹介
6	相生湾自然再生学習会議	相生湾を生物多様性の豊かな里海に！ 活動紹介、ドアプレート・チリモン・海づくり	17	日鉄神鋼建材 株式会社	■ NIPPON STEEL 海洋商品の製品紹介
7	特定非営利活動法人 神戸海さくら	瀬戸内海での海の豊かさを守る取組み 活動紹介、海洋プラスチックセラー・エコバッグ販売	18	海洋土木株式会社	FP漁業による藻場再生 製品紹介、模型展示
8	兵庫県水産技術センター	兵庫県で獲れる魚を知ろう！ ぬり絵をしてオリジナル缶バッジ作成	19	須磨里海の会	須磨海岸を望海に 取組紹介、アマモ展示 アマモを育てよう！（種まき体験、見学ワークショップ）
9	兵庫県漁業協同組合連合会	水産加工品販売	20	① 兵庫県漁業協同組合連合会 ・兵庫県漁協女性部連合会 ② (公社) 瀬戸内海環境保全協会 ③ 株式会社 神戸製鋼所	子どもや学生が思う森や海のことについて ① ひょうご海の子作品展 ② 瀬戸内海環境保全推進地ポスター展覧会 ③ KOBEの森の歴史大賞絵本展
10	兵庫県立香住高等学校	海洋科学科 特製缶詰販売	21	明石おさかな普及協議会	「子ども海の文学賞」作品展示、第2回募集案内
11	NPO法人 Peace&Nature	全てつながっている！ It's all connected! 自分たちで作ったお米・野菜・パン・ケーキなどの販売	22	生活協同組合コープこうべ 第6地区本部 TEAM TOPEPICI	チームとれびち 豊かな海の学習パネル展示

海づくり活動報告

兵庫県環境部 水大気課

● 瀬戸内海環境保全特別措置法制定50周年記念式典 ●

瀬戸内海環境保全知事・市長会議事務局

環境省、知事・市長会議等の主催で、【先人から若者へ 若者から未来へ 未来へのバトンパス】をテーマに、神戸国際会議場（LIVE配信あり）にて「瀬戸内海環境保全特別措置法制定50周年記念式典」を令和5年11月12日に開催しました。漁業関係者、環境保全団体、大学生・高校生、国会議員、府県市議会議員など、約400名が参加する盛会となりました。

第1部では、瀬戸内海沿岸府県にある高校によるポスターセッション、第2部では、大学生による「瀬戸内未来ビジョン」の提言、幅広い世代によるパネルディスカッションなどを行いました。

第1部 高校生によるポスターセッション

「瀬戸内海の地域の課題解決に向けた調査・研究の成果」をテーマに、21校（うち1校は特別参加）が参加しました。会場でのポスター発表と、オンライン配信での口頭発表を行い、優秀校を決定しました。

【最優秀賞】 山陽学園高校

瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決に向けての実践

～「シビック・テック」活用による市民協働活動からの挑戦～

【優秀賞】 兵庫県立御影高校

キノコから六甲山の環境を探る ～海と山のつながりを考える～

食品コースが取り組む海洋環境問題 プダイを美味しく食べて藻場を増やそう



第2部 記念式典

大学生4チームが、それぞれの取材活動等を通して学んだことを「瀬戸内未来ビジョン」として提言し、全員で【50年後も世界に誇れる“SETOUCHI”に】とメッセージを発信しました。

パネルディスカッションでは、大学生・高校生などのZ世代や、広島大学の松田名誉教授、土居環境省水・大気環境局長、菅兵庫県環境部長を交え、瀬戸内の未来について意見交換を行いました。



Youtubeにてアーカイブ映像 絶賛配信中!

第1部 第2部

虹の仲間であつくりり ～明石大蔵海岸で開催～

JF兵庫漁連、生活協同組合コープこうべ、兵庫県、明石市及び神戸市で構成される「ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会」では、「豊かな海を食べる・学ぶ・体験する」をテーマに、豊かで美しい海の必要性を広く県民にPRすることを目的として、「虹の仲間であつくりり」の活動を開催しています。本年度第2回目となる今回の活動は、11月19日（日）、明石大蔵海岸に県内各地からJFグループ関係者、コープこうべの組合員や行政関係者など約90名が集まりました。

同協議会 突々 淳会長の挨拶の後、参加者は2班に分かれて稚貝放流・施肥作業と海中観察を行いました。



水中ドローンを操作する様子



施肥作業の様子



突々会長挨拶の様子

流先の沿岸の様子を観察、子供達は、大型水槽に入った魚の様子を観察しました。

施肥作業等の終了後は昼食を兼ねて交流会を行い、締めは、生活協同組合コープこうべ金子博子理事より閉会の挨拶をいただきました。

参加者の皆様には、豊かな海について体感できる活動になったのではないかと感じています。



突々専務挨拶の様子

全作業が周知徹底されました。約1時間半の作業を終えると、参加者の方から「空がちよつと見えるようになってきた」という大きな声も聞こえ、安心感を感じました。

除伐作業終了後は、昼食・交流会を行い、締めは、生活協同組合コープこうべ第5地区本部 河端晶子理事より閉会の挨拶をいただきました。

参加者の皆様には海と森のつながりを体感できる活動になったのではないかと感じています。

虹の仲間であつくりり

～神出神社（神戸市西区）周辺で開催～

漁業者と消費者が共に手を携えて、豊かな海を支える森を育てていくことを目的に、コープこうべとJF兵庫漁連が共同で取り組んでいる「虹の仲間であつくりり」は今年で17回目の開催となります。快晴に恵まれた12月2日（土）、神戸市西区にある神出神社（神出神社周辺）に県内各地からJFグループ関係者、コープこうべの組合員や行政関係者、企業関係者など約90名が集まりました。

JF兵庫漁連 突々 淳専務理事の挨拶に続き、視察を兼ねて活動に参加された末松信介参議院議員より挨拶をいただきました。その後、NPO法人「ひょうご森の倶楽部」山下広行会長より作業の注意事項の説明があり、全員で準備運動を行いました。

開会式終了後、ヘルメット姿の参加者は13班に分かれ、ひょうご森の倶楽部の指導員の方々に誘導され、次々に森に入りました。指導員の方から作業の説明を受けた後、参加者は周囲に気を配りながら、広葉樹や花の咲く樹を残し、常緑樹や蔓性の植物を除去しました。除伐作業の際は、除伐した木を倒す時の「倒れます」という大きな声も聞こえ、安心感を感じました。



昼食・交流会の様子



除伐作業の様子

県農林水産業の功労者表彰

“令和5年度 兵庫県水産賞” 受賞者決定



受賞者の皆様（前列 左から竹内様、山下様、松下様）

氏名	所属	功績内容
たけうち たくや 竹内 卓也	JF相生	かき養殖業の振興と漁協経営の安定化に貢献
まつした まつた 松下 時久	JF室津浦	のり養殖業の振興と漁協経営の安定化に貢献
やました やました 山下 とおる 徹	JF但馬	日本海へにずわいがに漁業の振興と漁協経営の安定化に貢献

（敬称略）

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が、令和5年12月15日（金）県公館（神戸市中央区）で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はJF相生 竹内卓也さん、JF室津浦 松下時久さん、JF但馬 山下徹さんの3名の方が受賞されました。表彰式では服部洋平副知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。

受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。

JF兵庫漁連 第48回通常総会開催

JF兵庫漁連

JF兵庫漁連は12月8日（金）、明石市内のホテルにおいて、第48回通常総会を開催しました。

漁業者が安心して沖に行けるよう、役員一同今後引き続き、漁業の発展に取り組んで参ります。

開会にあたり、田沼会長より「東京電力福島第一原発でのALPS処理水の海洋放出の影響に対して、本会としても補助事業が円滑に利用できるよう取り組んでいきたい。また、第48期の本会事業においては、のり共販は、単価が高値で推移したこと、計画を大きく上回る結果となりました。一方、加工事業においては、主力魚種の原料価格高騰や経費の上昇が影響し、利益確保が厳しい状況になりましたが、全体では計画を上回り、配当ができる結果となりました。これもひとえに会員の皆様方のご協力・ご支援のおかげと厚く御礼申し上げます。」と挨拶をされ、続いて来賓代表として、兵庫県農林水産部 塩谷次長から祝辞を賜りました。

第48期の事業実績は、事業総取扱高330億6千5百万円、経常利益2億6千6百万円（計画対比2億1千9百万円増）となり、48期事業報告、49期事業計画、第6次中期経営計画等、上程した8議案は全て可決承認されました。49期においても、



こだわりの方法で栽培した 丹波大納言小豆を次世代につなぐ

400年以上前から栽培される丹波大納言小豆を途絶えさせないため、蘆田圭介さんは、親子で栽培に取り組んでいます。

丹波大納言小豆は、湿度が多い地面に実が触れると病気にかかりやすいため、ほ場全体を緩やかな傾斜になるように耕し、効率よく排水しています。また、幹が倒れないように畝の周りにロープを張り、病気を予防する工夫もしています。この手法は、約5年間の研究を経て蘆田さんが考案したものであり、大きな手間と労力がかかりますが病気を予防する効果が大きく、実に光が多く入り色付きが良くなるといった利点もあります。JA丹波ひかみ営農経済部営農振興課山本優治さんは、「蘆田さんは、収穫量の安定を図るため労力を惜しまれません」と話します。

また、蘆田さんは直売所出荷者で構成される「野菜づくり3アール運動部会」の会長を務めています。部会の活動は、外部講師を招いて講習会を開催し部会全体のスキルアップを図ったり、直売所で旬の野菜が当たる抽選会を開催するなど多岐にわたります。

今後も、蘆田さんは手間と労力を惜しまないこだわりの栽培方法により高品質な丹波大納言小豆栽培を続けていきます。また、部会員への講習会の実施や直売所でのイベント等を通して、よりお客様に満足いただける直売所を目指します。



<https://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

ピースアクション2023 第2弾 「戦跡ウォーク ～歩いて学んで～ —神戸の街に残る戦争遺跡をまわろう—」を開催

兵庫県生協連では、戦争の悲惨さを学び平和の大切さを考え確かめ合う場として「ピースアクション」の取り組みを行っています。今年度の取り組み第2弾として2023年11月19日、神戸空襲の戦跡のうち兵庫区の8か所を巡りながらクイズを解くウォークを開催しました。

参加者はJR兵庫駅で神戸空襲の地図を見ながら「神戸平和マップをつくる会」の小城智子さんからお話を聞いたのち、最初の目的地兵庫図書館・戦災記念資料室に向かいました。その後、空襲で殉職した女性電話交換手の慰霊碑がある柳原天神社や、兵庫大仏のある能福寺、真光寺の空襲跡を訪ねました。大輪田橋では、「神戸空襲を記録する会」の馬場敦子さんから炎と熱風に追われ水のある運河へ逃げ込んだ人が蒸し焼き状態になって亡くなったお話を聞きました。参加者8名とピースアクション実行委員10名、大学生協 学生事務局学生委員4名、語り部2名の計24名で今ある平和の大切さを考える時間を過ごし、参加者と引率者との交流も活発に行われました。



◀戦跡の説明をする大学生。下見ウォークの成果です



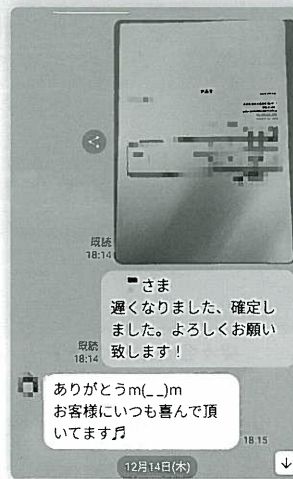
▶大輪田橋では戦争の本当の恐ろしさを実感しました

<https://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

ようそろ

～ずっと真っ直ぐに～

(ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる)



とんでもない世界に足を踏み入れてしまったと思う反面、この仕事が妙に自分に合っているようで、嬉しくも思う今日この頃。これからは沢山皆様に兵庫の魚を届けていきたいと思っています。例えば今が旬の赤ナマコはいかがですか？他にも鮮魚でご入用あれば、ぜひ流通加工部までご連絡下さい。お待ちしております。

様々な経験をしてきましたが、ここまでどっぷり魚と関わることが無かったため、異動当初の頃は、毎日がそれは新鮮で、兵庫県で水揚げされる様々な魚を見て、実際に手に取るのが出来ることに、毎日興奮していました。しかしそれもつかの間、今度はその魚を販売しなければいけません。その時の水揚げ状況や市況に応じて、刻々と変化する相場。水揚げは兵庫県だけでなく、他の産地もあり、これを把握しつつ、タイムリーに取引先に提案していかねばいけません。「一箱いくら？」「キロ目なんぼ？」「入数は？尾単価は？」と、当初は「得意先が話す専門用語なのか？」と思うような質問攻めで、しかも早口、そして口調も強めな気がして、怖気づくことも。ただ相手も商売のこと。鮮魚という鮮度がものをいう商材を扱っている以上、今では理解出来るようになりました。



赤いナマコいかがですか？ 兵庫県漁業協同組合流通加工部 鮮魚流通担当 原 和也

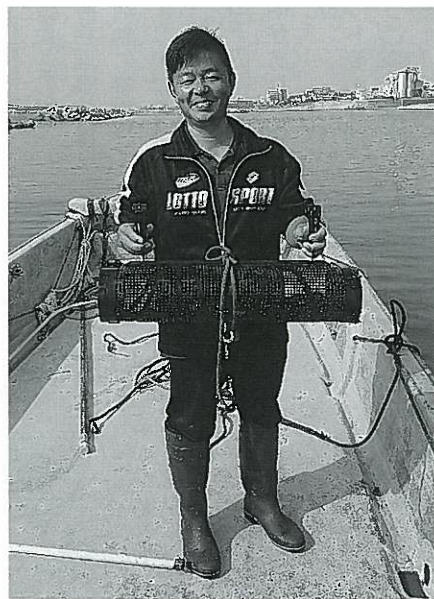
私は、今、県漁業流通加工部という部署で鮮魚流通を担当しており、日々兵庫県内で水揚げされる魚の情報を集め、各取引先に提案・販売していく業務を行っています。この部署に来てから約一年、失敗を重ねながらですが、多くの皆さんのお力・お知恵を借りながら、ここまでやってこれました。

漁師の挑戦

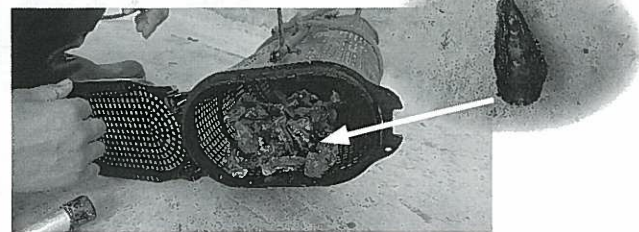
明石産 カキ養殖

現在、漁業者は海底耕耘やかいぼりなど豊かな海への再生に向けた活動を行っています。一方で、著しい漁場環境の変化に対応し、漁業経営の安定を図るためには、新たな収入源となる漁業の模索も必要となります。そんな新たな漁業に挑戦している漁師さんをご紹介します。

明石市内にあります江井ヶ島漁業協同組合に所属の竹本祥訓さんがカキ養殖に挑戦しています。「タコ」の激減、ノリの色落ちなど漁業は深刻な状況にある。このままではだめだと思い、新たにカキ養殖に取り組みことにした。と話す竹本さんは、冬場にノリ養殖をしており、ノリの色落ちが深刻化する中、新たな収入源となる漁業について模索していました。



カキ養殖に挑戦中の竹本さん



バスケットの中のカキ

3月頃には、一度も産卵していないバージンオイスターとして、濃厚でクリーミーな味わいのカキが食べられます。「えぐみがなく、今までカキを食べられなかった子供でも食べられる。」と話す竹本さんは、明石で初めてとなるカキを広めようと奮闘しています。

シングルシード方式とは……
種苗の段階から一粒一粒独立して育成されたカキを入れたバスケットを吊るし、波を受けることで、バスケットの中のカキを転がしながら、抑制をかけて育てる養殖方法のことです。

協同組合人養成講座 1月講座(1月24日(水))のご案内

開催時間	講座名	講師名
13:00~14:30	水産基本法	兵庫県農林水産部 水産漁港課 課長 山下 正晶
14:40~16:10	漁場環境I	JF兵庫漁連 専務理事 突々 淳

JF兵庫漁連

講座はWEB受講も可能ですので、多数の方々の参加をお待ちしております。また、会館での参加者による情報交換会では、簡単な食事と飲物を交えての職員間のコミュニケーションが図れますので、会館での受講にも参加下さい。

令和5年度 「ひょうご海の子作品展」 絵画部門 受賞者決定!!

JF兵庫漁連とJF兵庫女性連は、輝く未来を担う小中学生に、海を愛し、美しく豊かな海を守る事の大切さと漁業に親しむ心を育てるため、「ひょうご海の子作品」(絵画)を県下の小中学生を対象に募集し、60点のご応募をいただきました。

令和5年11月24日に最終審査会を行い、受賞作品が決定いたしましたので、入選された皆さんをご紹介します。
(作文部門は、拓水3月号に掲載予定)

【絵画部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	洲本市立洲本第二小学校	6	平野 心奈	漁港の朝
兵庫県教育長賞	洲本市立青雲中学校	3	小谷 芽愛	漁港の昼休み
J F 兵庫漁連会長賞	神戸市立有野北中学校	2	福永 柚樂	受け継ぐもの
	神戸市立美賀多台小学校	5	竹内美彩乙	海の中の世界
J F 兵庫女性連会長賞	洲本市立洲本第三小学校	6	別惣 羽純	ふるさとの風景
	淡路市立学習小学校	1	池田 響	あかしかいぎょうおおはしのしたで
J F なぎさ信漁連理事長賞	加古川市立平岡東小学校	3	西本 六花	ちゅうらうみ水族館の生きものたち
	加古川市立平岡東小学校	2	滝川 晴琉	広くてたのしい海の中
農林中央金庫大阪支店長賞	神戸市立有野北中学校	3	高次 祐衣	夏の海
	加古川市立平岡東小学校	2	明石 琴葉	ゆかいな海の仲間たち

※紙面の都合上、佳作は掲載しておりません。

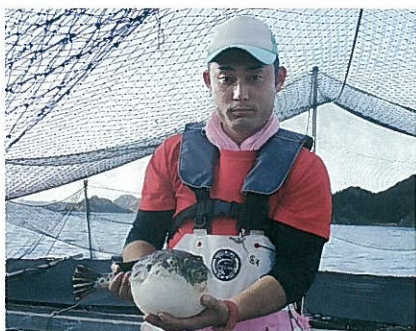
○JF兵庫漁連HPでも受賞作品を掲載予定! (https://www.seat-sakana.net/uminoko_sakuhin/) (JF兵庫漁連)



＜兵庫県知事賞＞ 漁港の朝
洲本市立洲本第二小学校 6年 平野 心奈さん

＜兵庫県教育長賞＞ 漁港の昼休み
洲本市立青雲中学校 3年 小谷 芽愛さん

表紙の言葉



福良漁業協同組合 亀山尚汰さん

魚類養殖業に従事されている、亀山尚汰さんにお話を伺いました。「漁師をしてよかったと思う瞬間は何ですか?」という質問に対して、「魚を養殖し、加工して、お客さんの手元に届け、美味かったと言われる際に、この仕事いいなと思います。」と話されたことが印象的でした。